

〇〇の東西 調べ学習(図書館オリエンテーション)

一年 組 番 氏名

宿題(一)『水の東西』の学習を受けて、皆さんも比較文化論を考え、発表してみよう。

まず、例にならって、日本文化と他文化の対照的な具体例を挙げてみよう。

		例	①	②	③	④	⑤
日本文化		鹿おどし					
他文化(国名)		噴水(イタリアなど)					

二時間目(二)百科事典や書籍を参考にして、【一】で挙げた具体例について、その違いがわかるような特徴をそれぞれ書き出そう。(箇条書きで可、複数の特徴を列挙する。)

		例	①	②	③	④	⑤
日本文化		流れる水、時間的な水					
他文化		噴き上げる水、空間的な水					

二時間目(三)グループでこのシートを発表し合おう。名簿順に一人ずつ調べた内容を班に紹介する。

- ① 発表者以外は、それぞれ発表の内容に対して感想や助言をする。
- ② 発表者は、班員の感想や助言を記録し、自分のスピーチの内容に活かす。

① 発表者への感想・助言

さんへ	さんへ	さんへ	さんへ

② 班員からの感想・助言

さんより	さんより	さんより	さんより

二時間目(四)調べ学習、級友からの助言を参考にして、自分がスピーチをする内容を決定して書き出そう。

【一】	日本文化	他文化
【二】		
特徴の 対比		

〇〇の東西 スピーチ原稿

一年 組 番 氏名

二時間目(五)『水の東西』の学習を受けて、皆さんも比較文化論を考え、発表してみよう。

二時間目までの調べ学習を参考に、発表原稿の構成を、以下の形式に当てはめながら考えてみよう。ただし、一人につき、九十秒をスピーチの持ち時間とする。九十秒になるように内容を考えよう。

日本の文化を代表する**具体例**として、わたしは

を考えました。

その特徴は

です。

また、()の文化を代表する具体例として

を考えました。

その特徴は

です。

以上の具体例を**比較**して、それぞれの**文化の違い**についてまとめてみると、

ということが言えます。

そして、この調べ学習を通して、**日本の文化とは**

ということがわかりました。以上です。ありがとうございました。

三時間目(六)この原稿を元に各クラス二十人ずつに分かれて、一人ずつスピーチをする。

話す態度も聞く態度も評価対象になるので、裏の注意点を意識して参加すること。

スピーチの進め方

司 会Ⅱ国語係

スピーチ九十秒＋評価三十秒Ⅱ一人につき二分で終わるように、

速やかに進行してください。

- ① 「これより一年〇組の『文化比較に関する発表』を始めます。」
- ② 「次の発表者は〇〇さんです。それでは、よろしくお願いします。」
- ③ スピーチ開始から終了まで時間を計測する。↓「〇分〇秒です。」
- ④ 「ありがとうございました。聞いていた皆さんは評価とコメントを記入してください。」
↓三十秒後、②から繰り返す。（国語係もスピーチ評価シートを記入する。）
- ⑤ 「最後に、私、〇〇が発表します。」↓発表を始める。
- ⑥ 発表が終わったら↓「以上で一年〇組の発表を終わります。」
- ⑦ 三十秒後「スピーチ原稿と評価シートを集めます。机ごとに回収して先生に提出してください。」

話し手

自分の名簿番号の二つ前の生徒が話し始めたら、前の方に出てきて待機しておくこと。
順番が来たらスピーチを始め、終わったら速やかに自席に戻ること。

◇話し方の注意点

- ① 発音、発声が明瞭で意味ががはつきりと伝わるように話すこと。文末を明確にすること。
- ② 話す時の姿勢、表情、目の位置、身振り、声の大きさなども考えて話すこと。また、話し方の癖に気をつけて、その場にふさわしい言葉遣いすること。
- ③ 話の内容に応じて、聞き手に興味をもって最後まで聞いてもらえるように工夫すること。
(例 強弱や緩急をつけて話すこと。)

聞き手

スピーチする以外にも、級友のスピーチを聞き、評価をシートに記入すること。

(評価項目ごとに3・2・1のいずれかに○＋コメント記入)

◇聞き方の注意点

- ① 集中して聞き、話の内容を正確に理解すること。
- ② 話し手に目を向け、相づちを打ったりしながら、温かい態度で聞くこと。
- ③ 興味深い内容や重要な点はメモをとり、話し手に感想や助言などのコメントを書くこと。